

平成28年度 看護部教育計画表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体研修		13.22医療安全	6医療安全	8.17.24感染			14.23.30感染 15認知症	12.21.28褥瘡	医療安全月間				
			11.20.27褥瘡					9.18.25医療安全					
看護部	全体	新入職者オリエンテーション	19摂食嚥下	看護管理実践報告会									
	看護師	← 院外研修・発表 →											
	看護補助者			カ. 感染(模擬便を用いた感染対策)	エ. オムツの当て方について	ア. イ. 組織の理解、看護補助業務の理解		オ. 守秘義務、個人情報保護	カ. 医療安全(KYT)	カ. 感染予防(清潔・不潔)	ウ. 口腔ケア		
	備考			平成28年度看護部教育計画作成、配布	平成27年度実践報告書作成、配布							平成28年度実践報告書作成、配布	平成29年度看護部教育計画作成、配布

看護部教育委員会 教育目標一覧

レベルⅠ (新人)	レベルⅡ (入職者)	レベルⅢ (スタッフ)	レベルⅣ (リーダー)	レベルⅤ (管理Ⅰ)	レベルⅥ (管理Ⅱ)	レベルⅦ (看護助手)
<p>1. 到達目標</p> <p>1) 新しい環境に慣れ、病院全体の概要がわかり、社会人としてのマナーを身につける。</p> <p>2) 病棟のメンバーとしての役割と責任を果たすことができる。</p> <p>3) 日常生活援助のための基本的知識・技術・態度を習得できる。</p> <p>4) 自分の考えを文章としてまとめることができる。</p> <p>5) 看護基準・手順、マニュアルの必要性がわかり、見ながら行動できる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 社会人としてのマナーを身につけ、言葉遣い、服装、挨拶等、清潔でさわやかに接することができる。</p> <p>2) 企業としての病院・組織を理解し、つばは双愛病院の一員としての医師・メディカルチームとのより良い人間関係を築きながら行動する。</p> <p>3) 提出物、届出等について事前に行う。</p> <p>4) 個人目標を立て、実践評価する。</p> <p>5) 院外での学習に積極的に参加し、当院及び病棟のよいイメージを伝えることができる。</p> <p>6) 日々の中で、上司、同僚、メディカルチームとのより良い関係を築き、報告、連絡、相談をする。</p> <p>7) 病棟でチームの一員としての自覚を持ち、行動する。</p> <p>8) 受け持ち看護師として、役割、業務を理解し、日々のケアを提供する。</p> <p>9) プリセプターの指導のもと、受け持ちナースとしての役割・業務を理解し実践することを学習する。</p> <p>10) 日常生活援助技術を当院の手順に沿って実践する。(新人チェックリストに沿って評価する。)</p> <p>11) 対象に看護過程(アセスメント・計画・実践・評価)を使い、日常生活援助を実践</p> <p>12) 病棟の特殊性に応じた技術を習得し、日々実践する。(病棟のチェックリストに沿って評価する)</p> <p>13) 病棟の看護研究に関心を持ち、必要時協力する。</p> <p>14) 院内看護研究発表会に参加する。</p> <p>15) 病棟の看護研究発表について院内看護研究発表会に参加し、自分の意見や感想を病棟会などで発表する。</p> <p>16) 看護基準・手順、マニュアル(安全・感染)の定位置がわかる。</p> <p>17) 入職時より基準・手順を見ながら技術の習得をしていくことができる。</p>	<p>1. 到達目標</p> <p>1) 病棟内で安全に働くことができる</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 職場の環境に慣れる(職場雰囲気・人間関係・患者管理・物品など)</p> <p>2) 院内における自部署の役割を認識する</p> <p>3) 自部署における自己の役割を認識する</p> <p>4) 自己の課題を明確にする</p> <p>5) 自己の課題を達成するための具体的な行動計画を立案・実施・評価することができる</p>	<p>1. 到達目標</p> <p>1) 病院及び看護部の方針を理解し、行動できる。</p> <p>2) 院外研修に進んで参加し、また院内、院外で自分の意見を出すことができる</p> <p>3) プライマリナースの役割がわかり、看護過程を踏まえた個別的ケアができる。</p> <p>4) 看護研究に取り込む。</p> <p>5) 看護基準・手順、マニュアルの必要性が理解でき、活用できる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 病院理念、方針、看護部の理念、方針の行動計画を立て、実践・評価する。</p> <p>2) 接遇チェックリストに沿って自己評価・他者評価を行い、互いに成長していく。</p> <p>3) プリセプターとして先輩として指導をし、同僚共互いに啓発していく。</p> <p>4) 院内他部門とのより良い人間関係作りをする。</p> <p>5) 個人目標を立て、実践評価する。</p> <p>6) 院外研修に参加し、学習したことを病棟で報告する。</p> <p>7) チーム会、病棟会で自分の意見を述べる。</p> <p>8) 院外研修で、自己紹介(つばは双愛病院の紹介)ができる。</p> <p>9) 受け持ちナースとして入院から退院までのケアを個々の対象に看護過程を使い実践する。</p> <p>10) 受け持ちナースとして患者の記録物に責任を持つ。</p> <p>11) 受け持ちナースとして受け持ちナースとして、カンファレンスの司会、記録をする。</p> <p>12) 受け持ちナースとして家族やメディカルチームの調整をする。</p> <p>13) 院内の看護研究を行う。</p> <p>14) 院内看護研究発表会で質問、意見を述べる。</p> <p>15) 看護基準・手順・マニュアルの必要性がわかり説明できる。</p> <p>16) 看護基準を見ながら学習していくことができる。</p>	<p>1. 到達目標</p> <p>1) 病院及び看護部の方針を理解し、リーダーシップがとれる。</p> <p>2) 院外研修に進んで参加し、当院のPRをすることができる。</p> <p>3) 看護過程の構造に沿って、看護展開ができる。</p> <p>4) 看護研究に取り組み、発表できる。</p> <p>5) 看護基準・手順、マニュアルの必要性を理解し、活用・指導できる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 病院の理念・目標・看護部の理念・目標を理解し、病棟の目標にそってチーム目標を立て、実践していく。</p> <p>2) 日常の中で常に問題意識を持ち、解決に向けて取り組む。</p> <p>3) 個人目標を立て、実践する。</p> <p>4) 院外研修に必ず参加し、院内または病棟で伝達講習を行う。</p> <p>5) 接遇・身だしなみについて院内で啓発しあえ行動する。</p> <p>6) チームナーシングリーダーの機能と役割を理解し、行動する。</p> <p>7) 受け持ちの機能と役割を明確にし、指導する。(定義から具体的な行動まで)</p> <p>8) 主任と連絡・相談しながらチーム間の調整ができる。</p> <p>9) 偶発的出来事に対し、速やかに対応し、発生する問題を予測し医療チームと連携を取る。</p> <p>10) アセスメント、期待される結果、計画立案、実践評価をカンファレンスで討議し、実践し記録する。</p> <p>11) カンファレンスの司会をし、先輩の意見を引き出し意見をまとめることができる。</p> <p>12) 看護研究のリーダーとして研究を進め、基本に沿ってまとめ、先輩へ助言していく。</p> <p>13) 研究発表を行う。</p> <p>14) 研究について学習する(院外含む)。</p> <p>15) 看護基準・手順、マニュアルの定位置と目的が説明できる。</p> <p>16) 看護基準の活用方法が理解でき、説明できる。</p> <p>17) 看護基準を活用しながら、実践していくことができる。</p> <p>18) 看護基準の活用について、メンバーへ指導できる。</p>	<p>hikeno</p> <p>1) 病院及び看護部の方針を理解し、現場の問題解決に取り組める。</p> <p>2) チーム運営に責任を持ち、リーダーシップが取れる。</p> <p>3) 看護過程の構造に沿った看護展開の指導ができる。</p> <p>4) 臨床研究のあり方、方法について学ぶことができる。</p> <p>5) 看護基準・手順、マニュアルの必要性を理解し、活用・指導できる。</p> <p>6) 師長補佐としての主任の役割と業務がわかり行動できる。</p> <p>7) 診療報酬に関心を持ち、病院経営参画への具体的管理がわかる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) チームナーシングの確立のためスタッフの指導を行う。</p> <p>2) 事故発生時の対応を行う。</p> <p>3) 日常看護ケアの際、スタッフの指導を行う。</p> <p>4) 物品管理を行う。</p> <p>5) 教育委員会活動・手段・基準を作成し、スタッフの指導をする。</p> <p>6) 個人目標を立て実践評価する。</p> <p>7) 自らも学習し、自己研鑽する(ファーストレベルの修了)</p> <p>8) 接遇、身だしなみについてスタッフのモデルとなる。</p> <p>9) 医療経済の流れがわかる</p> <p>10) 病棟運営における法的根拠がわかる</p> <p>11) 「診療点数早見表」の見方がわかる</p> <p>12) 看護配置に関する管理法がわかる</p> <p>13) 平均在院日数と稼働率の意味が分かる</p> <p>14) 具体的なベッドコントロールができる</p>	<p>1. 到達目標</p> <p>1) 看護管理の基本を理解し、実践できる。</p> <p>2) 病院方針と経営の参画ができる。</p> <p>3) 看護部の理念・方針に沿って病棟目標を設定し、目標達成のための活動推進ができる。</p> <p>4) 病棟を円滑に効果的に運営できる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 医療物品・スタッフ・患者・家族・医師・メディカルとの関係について指導する。</p> <p>2) 組織的に動き、報告・連絡・相談の実践、指導する。</p> <p>3) 各委員会に参加し、役割を遂行する。</p> <p>4) 経費節減に向けてコスト意識を持たせ、指導する。</p> <p>5) 残業削減とスタッフの離職防止に努める</p> <p>6) 自らが医療の進歩に関心に向け、他の情報を得ながら当院の職員として行動する。</p> <p>7) 目標管理の周知徹底と指導を行う。</p> <p>8) 各病棟内の協力体制ができるよう指導する。</p> <p>9) 自らも学習し、自己研鑽する。</p> <p>10) 個人目標を持ち、実践評価する。</p> <p>11) 固定チームナーシング推進に向け、日常業務を把握し、スタッフへ適切な指導をする。</p> <p>12) 研修会、雑誌等より看護の変化について学習を進めていく。</p> <p>13) 自病棟の平均在院日数短縮と、稼働率90%以上を維持する。</p> <p>14) 診療報酬改定の内容を早期に学習し、改定に沿った病棟運営をしていく。</p> <p>15) スタッフへ経営状況を意識的に働きかけるために伝え、共に健全経営に向け努力できる。</p>	<p>1. 到達目標</p> <p>1) 病院及び看護部の方針を理解し、行動できる。</p> <p>2) 病棟のメンバーとしての役割と責任を果たすことができる。</p> <p>3) 日常生活援助のための基本的知識・技術・態度を習得できる。</p> <p>4) 看護助手基準・手順、マニュアルの必要性がわかり、行動できる。</p> <p>2. 行動目標</p> <p>1) 社会人としてのマナーに留意し、言葉遣い、服装、挨拶等、清潔でさわやかに接することができる。</p> <p>2) 企業としての病院・組織を理解し、つばは双愛病院の一員としての医師・看護師・メディカルチームとの</p> <p>3) より良い人間関係を築きながら行動する。</p> <p>4) 提出物、届出等について事前に行う。</p> <p>5) 個人目標を立て、実践評価する。</p> <p>6) 日々の中で、上司、同僚、メディカルチームとのより良い関係を築き、報告、連絡、相談をする。</p> <p>7) 病棟でチームの一員としての自覚を持ち、行動する。</p> <p>8) 看護補助者として、役割、業務を理解し、日々のケアを提供する。</p> <p>9) 日常生活援助技術を当院の手順に沿って実践する。</p> <p>10) 病棟の特殊性に応じた技術を習得し、日々実践する。</p> <p>11) 院内・院外研修会に積極的に参加し自己研鑽に努める</p> <p>12) 看護助手基準・手順、マニュアルの定位置がわかる</p> <p>13) 入職時より基準・手順を見ながら技術の習得をしていくことができる。</p>